

## 1. 「災害時に緊急派遣される消防隊員の非常用食料」について

～災害現場の最前線で活動を行う消防隊員が安心安全に活動できる環境を～

### ■質問 1

今年の7月に甚大な被害をもたらした九州北部豪雨災害では、被災地から福岡市に対し、人命救助などの消防活動のための応援要請があり、福岡市消防局からは朝倉市、東峰村、大分県に併せて、延べ約1,000名の消防隊員を派遣し、活動を行っています。消防隊員が人命救助を行うにあたっては、迅速性が最も重要となるため、最低限必要な食料などの十分な準備を整える余裕などない中で、被災地に向けて出発しなければなりません。

消防局においては、緊急消防援助隊として他県へ消防隊を派遣する場合の隊員の食料などは、消防署などに非常用として備えておき、応援要請があった場合には、必要な資機材の装備と併せて最低限の食料を用意し、迅速に出動ができる対策が必要であると思いますが、本市の現状についてお尋ねします。

### ●回答 1 【消防局長】

緊急消防援助隊として他県へ出動する場合は、必要な食料などを福岡県が福岡県生活協同組合連合会と食料の供給について協定を結び手配することになっています。

消防隊員の非常用食料については、組織的な備蓄は行っておらず、個々の消防隊員が自主的に食料などを準備し対応しています。

### ■質問 2

本市では、防災減災対策をはじめ火災などの災害が発生した際の消防対策について、様々な対応が講じられていますが、一方で、他県で発生した災害に緊急派遣する際の消防隊員への非常用食料などの準備については、さらに充実していく必要があると思います。

少なくとも、食料の供給体制が万全に整うまでの対応として、最初に派遣する消防隊員の非常用の食料を、日頃から組織的に準備しておき、出動時に持参できる体制を構築する必要があると思いますが、今後の取組みについてお尋ねします。

### ●回答 2 【消防局長】

応援要請直後の最初に派遣する消防隊員については、過酷な災害現場で長時間の人命救助活動などに全力で従事できるよう、非常用食料の確保は大変重要と考えています。

現在は、消防隊員が個々に準備している食料などで対応していますが、より万全を期すため、議員ご指摘のとおり、非常用食料を組織的に準備しておく体制の実現に向けて取り組んでいきます。

## 2. 「高宮南緑地及び旧高宮貝島家住宅の活用」について

～地域の理解と協力のもと、市民に喜ばれ愛される魅力ある公園施設の整備に向けて～

### ■質問 1

旧高宮貝島家住宅は、近代の炭鉱業隆盛期に「筑豊御三家」と言われた貝島一族の邸宅で、市内有数の近代和風建築であり、木造平屋の建物内部には、鳳凰を描いた欄間や細部まで凝ったデザインの天井など工夫が凝らされており、100年前の往時を偲ぶ面影が至るところにみられます。これらは、福岡市にとって大変貴重な資産であり、工夫次第でいろんな活用ができると考えますが、現在、どのような活用を想定しているのかお尋ねします。

### ●回答 1 【住宅都市局長】

高宮南緑地については、地域のシンボルである豊かな緑と、築100年以上の歴史を有し、平成29年6月に福岡市登録文化財として登録された旧高宮貝島家住宅があります。

この都市の貴重な緑の空間を保全し、また、歴史的建築物を活用して、市民をはじめ、多くの来訪者の皆さまに喜んでいただける、おもてなしや交流、癒しの場となるような魅力的な公園の整備・運営を目指していきます。

具体的な施設や活用のイメージについては、歴史的建築物を活用した日本文化の体験や、来訪者をもてなしたり、国際会議などMICE開催時のレセプション会場となるような施設、また、市民がくつろぎながら落ち着いて利用できる飲食施設や、自由に鑑賞・散策でき、緑と歴史を楽しめる庭園などを想定しています。

#### ■質問2

旧高宮貝島家住宅を含む樹林地は、地域のシンボルとして位置づけられ、当該地にゆかりのある方や愛着をもっておられる方も多く、本事業に対する住民の期待の声を聞く一方で、心配の声も耳にしています。

私も、これまで、地域に喜ばれる公園として早急に整備し、一般公開されることを要望してきましたが、いまだ整備には至っていません。

地域からは、「随分前から公園ができると聞いているが、ずっと放置されている。樹木がうっそうと茂り、暗くて怖い、防犯上からも早く整備を進めてほしい」といった声あげられています。これまでの取り組み状況と、遅れている原因についてお尋ねします。

#### ●回答2 【住宅都市局長】

高宮南緑地については、旧高宮貝島家住宅の保存活用計画を策定し、歴史的価値を保全しながら、多くの市民に活用いただける方策を検討してきました。

また、多くの民間事業者に魅力的な提案をいただけるよう、民間事業者の意見を聞きながら、事業スキームを検討しているところです。

これらの検討に時間を要し、地域の皆様にはご心配をおかけしていますが、多くの市民や来街者などに親しまれる施設となるよう取り組んでいきます。

#### ■質問3

地域は今か今かと待ち望んでいます。是非ともスピード感を持って進めて欲しいと思います。

多くの事業者に魅力的な提案をいただけるような事業スキームとは、どのような事業スキームで、そのメリットは何かお尋ねします。

#### ●回答3 【住宅都市局長】

高宮南緑地には、「旧高宮貝島家住宅」をはじめ、「園地」及び「樹林地」があり、この事業では、民間事業者に、公園の魅力さをさらに高める施設の設置を提案いただくことを考えています。

事業スキーム案としては、これらの施設の整備から管理・運営までを一体的に行える事業者連合体を公募により決定いたします。

そのメリットは、民間事業者に整備から活用までのトータルプランを提案いただくことで、旧高宮貝島家住宅の復元に加え、民間資金により、さらに高質な整備が可能となり、また、新たに整備される民間施設と旧高宮貝島家住宅が連携し、市民にとってより魅力的で多彩な整備や運営が期待できるものです。

#### ■質問4

具体的な活用方法は、事業者の提案によるわけですが、閑静な住宅街の中にこのような施設ができることについて、地域からは期待と不安、両方の声が挙げられています。魅力ある公園として

永続的に運営していくためには、地域の理解と協力のもと、市民に喜ばれ愛される施設であることが不可欠です。

事業者選定にあたり、地域への配慮や貢献などについてどのように考えているのかお尋ねします。

●回答4 【住宅都市局長】

事業者選定にあたっては、交通や環境面に関する周辺への配慮について提案を求めるとともに、事業者と地域の代表者などからなる協議会を設置し、地域活動での利用や周辺環境対策などについて、定期的に協議することなどを公募条件とする検討を進めています。

■質問5

活用のイメージとしては、歴史的建築物を活用した日本文化の体験や来訪者をもてなしたり、国際会議など MICE 開催時のレセプション会場となるような施設、また、市民がくつろぎながら落ち着いて利用できる飲食施設や自由に鑑賞・散策でき、緑と歴史を楽しめる庭園などを想定しているということでした。

これまで福岡市において、歴史的建築物や文化施設などを MICE や観光面で活用した事例についてお尋ねします。

●回答5 【経済観光文化局長】

MICE において、特別感や地域特性を演出し、おもてなしを行う場をユニークベニューと呼んでいます。福岡市ではアジア美術館などの文化施設や赤煉瓦文化館などの歴史的建築物、川端商店街などの公道活用で MICE 開催時のレセプションやシンポジウムを実施しています。

また、観光客が文化を知る場や体験できる場として、博多町家ふるさと館において博多独楽や博多人形などの絵付け、松風園などの日本庭園において着付けやお茶の体験を行っています。

■質問6

施設や空間を本来の用途以外でも活用することにより、これまで接点がありませんだった人々に施設を知ってもらうことで、来館者や支援者の増加が期待できます。また、イベント開催やスマートフォンを活用した情報発信など、観光資源としての魅力向上を図り、PRすることで集客促進につながります。

そのような活用を通じてブランド力をつけることが、施設の運営を行ううえでは大事な要素になります。旧高宮貝島家住宅でもそのような活用を福岡市として後押ししていただきたいと思えます。MICE や観光面での活用に向けた今後の取組みについてお尋ねします。

●回答6 【経済観光文化局長】

ユニークベニューは、国際会議や学術会議におけるイベントやレセプション会場としての利用ニーズが高く、当該住宅についても、歴史的建築物としての価値が高いと考えられることから、MICE 誘致時におけるレセプションなどでの利用を広くPRし、促進していきます。

また、観光面においては、高宮地区を巡るまち歩きコースに組み込まれており、今後一層のまち歩きや文化体験の場としての活用をPRしていきます。

■質問7

地域の皆さんは、長年待たされて、開園はいつになることかと首を長くして待っております。地域の不安解消のためにも、早急に事業者公募を開始し、工事、開園が実現されるよう強く要望します。

最後に今後の取組みの見通しと本事業への意気込みをお尋ねします。

●回答7 【住宅都市局長】

今後の取組みについては、公募要項等の検討を進め、平成30年2月頃に公募を開始します。

高宮南緑地については、都市の貴重な緑や歴史的建築物を活かしながら、多様なニーズにこたえ、おもてなしや交流、癒しの場として、多くの市民や来街者などに喜ばれる公園となるよう、2021年度の開園を目指して、しっかり取り組んでいきます。

### 3. 「民生委員の活動しやすい環境づくり」について

～地域での福祉活動の最前線にある民生委員の活動のあり方～

#### ■質問1

民生委員については、昨年12月に3年に一度の一斉改選が行われており、福岡市では、本年6月1日現在で2,405名の民生委員が地域の方々の相談を聞いたり、子育て家庭を訪問したりと、様々な活動をしていただいています。

今年は、民生委員制度創設100周年に当たり、福岡市においては、5月12日の「民生委員・児童委員の日」から1週間の活動強化週間に合わせた街頭キャンペーンの実施や、11月には市内の全民生委員が参加して「福岡市民生委員・児童委員大会」が盛大に開催されるなど、様々な記念事業が行われています。

一方では、少子高齢化の進展などの社会状況の変化に伴い、民生委員の活動内容も昔と比べて複雑多岐になってきているのではないのでしょうか。

前回、平成26年9月議会において、民生委員の負担軽減にむけた質問を行った際、早急に負担軽減に向けて見直しを図るということでしたが、民生委員の活動の根拠とこれまで具体的にどのような業務を減らしたのかお尋ねします。

#### ●回答1 【保健福祉局長】

民生委員の職務については、民生委員法第14条の規定にあるとおり、住民の生活状況を把握しておくこと、援助を要する方からの相談に応じ助言等を行うこと、などが挙げられています。これらの中で、見直した業務については、要援護者台帳調査が、平成27年度で終了し、行政からの依頼事項である敬老祝い金・シルバー手帳の配布が、平成28年度に終了しました。

#### ■質問2

現在の民生委員の活動状況はどのようになっているかお尋ねします。

#### ●回答2 【保健福祉局長】

単身世帯の増加など家族形態の変化、地域コミュニティの希薄化等の社会状況の変化に伴い、地域の中に様々な課題が現れてきており、これらを背景として、相談などの本来業務も増えているため、一人当たりの年間活動日数は、平成24年度の172日に比べ、平成28年度は3日の減にとどまっています。

#### ■質問3

民生委員活動のさらなる負担軽減に向けて、今後、どのように取り組んでいくのかお尋ねします。

#### ●回答3 【保健福祉局長】

今年度、民生委員活動の活性化を図り、幅広い人材から適任者を円滑に推薦することにつながる基礎資料とするため、全ての民生委員を対象に負担感などについての意識調査を行う予定であり、その調査結果も踏まえて、民生委員が活動しやすい環境づくりに努めていきます。

#### ■質問4

民生委員は、地域住民の様々な相談を受けて、地域におけるつなぎ役として、相談者を行政につ

なく重要な役割を果たしておられます。

これらの民生委員活動に対して、福岡市としてはどのように評価しているのかお尋ねします。

●回答4 【保健福祉局長】

民生委員の方々には、日頃から地域を見守り、地域住民の良き相談相手、行政と住民のパイプ役としてご尽力いただき、深く感謝しています。

民生委員の活動は、地域福祉活動の根幹をなすものであり、これまでも貢献していただいたが、今後も重要な役割を果たすものと考えています。

■質問5

民生委員には、常に地域住民の立場に立って、課題を抱える家庭等の相談などに熱心に取り組んでいただいております。このような活動に対し、感謝の意を伝える制度はないのかお尋ねします。

●回答5 【保健福祉局長】

民生委員活動の表彰制度としては、市長表彰や民生委員児童委員協議会会長表彰、社会福祉協議会会長表彰、全国民生委員児童委員連合会会長表彰、厚生労働大臣表彰などの表彰制度があります。

また、永年にわたる民生委員としての活動は、叙勲及び褒章の対象にもなり、今年度は3名の方が受章されました。

さらに、民生委員の職を継続していただく糧となるよう、2期目の方を対象に、福岡市独自の新たな表彰制度を検討しています。

■質問6

民生委員制度創設100周年を機に、改めて民生委員活動の周知に努め、民生委員への敬意を払うとともに、負担軽減については、国に対しても積極的に要望するなど、将来に向けて、民生委員が活動しやすい仕組みづくりに努めていくべきだと思います。

最後に、民生委員の活動のあり方についての今後の取組みの方向性をお伺いします。

●回答6 【保健福祉局長】

11月の市の民生委員・児童委員大会において、今後10年の活動強化方策が採択されました。民生委員の皆様が、この方策に基づき、民生委員活動にしっかりと取り組めるようにするためにも、国に対して、負担軽減を図るなどの処遇改善措置を講じるよう要望を行っているところです。また、民生委員制度創設100周年記念事業として行う、全ての民生委員への意識調査の結果を踏まえて負担軽減に取り組むなど、今後とも民生委員の皆様の意見を聴きながら、民生委員が活動しやすい環境づくりに努めていきます。